韓国語・英語・日本語のトライリンガル誕生

さて、 韓国からの留学生の中から、 英語検定 1 級、 日本語検定 1 級と言う素晴らしい成績を残し、 母語としての韓国語と合わせ 3 カ国語を高度なレベルで獲得した生徒も誕生しています。

この生徒の場合は韓国の現地校に在籍中、 独学で日本語を学んでおり、 本人の人一倍の努力は必要とするものの、 なんとか授業について行けるだけの日本語の基礎は身に付いていました。 また英語は勿論、 他の教科の力も優れていたため、 基礎からの日本語指導を行う日本語コースではなく、 日本語で授業を行う英語コースに在籍し、 明徳義塾入学まではほぼモノリンガルな状態から 3 年間で、 韓国語・日本語・英語のトライリンガルにまで到達したケースです。

トライリンガルが誕生する背景

インドネシア語、 英語、 日本語のトライリンガルの誕生とほぼ時期を同じくし、 タイ語、 中国語、 韓国語、 ベトナム語、 フィリピン語、 それと英語、 日本語のトライリンガルが誕生する事となります。

さて、 トライリンガルが明徳義塾で誕生する背景を以下のように整理してみました。

1、 入学時点でバイリンガルの要素が高い。

(1) 家庭内言語は英語ではないがインター校、 若しくは現地校で学習言語を英語で獲得している。

(2) 国際家庭の子女などで家庭内言語が複数言語の環境で育った背景を持つ。

2、 入学時点ではモノリンガルであるが言語習得能力が高く入学後にトライリンガルとなる。

(1) 日本語の獲得と英語又は中国語の獲得を目指し英語・中国語コースに在籍、 日本語・英語・中国語、 其々の言語によるダイレクト・メソッドの教育を受ける。

また、 1 年間留学を通じて英語・中国語における学習言語及び生活言語を獲得する。

母語教育の重要性を再認識

さて、 トライリンガルな生徒達の誕生には落とし穴がある事も事実です。

通常バイリンガル、 トライリンガルになるためには基礎となる言語、 母語の確立と成長が不可欠であると考えられています。

我が校では現在日本語、 英語、 中国語の教育を実践していますが、 韓国語、 タイ語、 ベトナム語、 インドネシア語などを母語とする生徒に対する母語教育は行っていません。

幸いにもそのような言語を母語とする生徒は高校から入学してくるケースが大多数の為、 中学までの間に確立された母語を用いて必要であれば自ら学ぶ力は備えています。

但し、 読書に親しむなどの努力をおろそかにしていると、 母語の力も徐々に弱まることは明らかです。

「書く力」を見守る

3 つの言語で其々に「聞く」「話す」「読む」「書く」を同じレベルで行うだけでなく、 其々の言語の文化的背景までを理解する事は殆ど稀と言えるかもしれません。

高校卒業レベルの「書く力」をどの言語で獲得して明徳義塾を卒業するのか。 トライリンガルな生徒が今後ますます増えて行くことが想定される我が校に取り、 多言語を操る生徒達の「書く力」を見守って行く事が、 そして育んで行くことが不可欠であることは言うまでもありません。

さて、 次回は「書く力」を育む為に本年度よりスタートさせた「エッセー・ライティング」の指導についてご紹介したいと思います。

写真の説明

共に学ぶ留学生と国内生

日本・韓国・中国・インドネシア・フィリピン・アメリカ出身の生徒たちが、授業を聞き、ディスカッションをして、エッセイの書き方を共に学んでいます。

高知県の田舎（失礼！）で、多くの言語とのバイリンガル、さらにトライリンガルまでを育てている明徳義塾。ユニークです！

留学生も含めて共通言語は日本語。「あいうえお」から国内大学入試用の「国語」までの幅広い日本語教育が、バイリンガル・トライリンガルの基本です。そのプログラムの充実度・実績は、在校生の 1/3 を占める留学生が示しています。

海外生活の中で日本語（国語）力に遅れをとった海外・帰国生にとって、その力を取り戻すチャンスのある、日本で唯一（？）の学校かも？